

【様式4】

令和6年度高根台公民館事業計画

1. 地域の状況

高根台公民館は平成8年5月25日、市内で24番目の公民館として、地域住民に待ち望まれて開館した。対象区域は高根台1～6丁目で、東西約1.8km、南北約0.8kmと東西に長く、管区内の一番遠い地点でも公民館から直線距離で1.4kmと管区は全て徒歩圏内といえる。中心となるのが高根台団地であり、その他の地域も住宅地と商業地である。

対象人口は令和6年4月1日現在、12,461人、世帯数6,747世帯で、人口の構成としては、65歳以上の人口は4,380人で割合は35.1%となり、市内平均24.0%と比較しても非常に高い割合で、高齢化が進んでいる地域である。

公民館は新京成線高根公団駅から徒歩2分と交通至便で、多くの市民に利用されている。

2. 地域の課題

- (1) 高齢化が進んでおり、ひとり暮らし・高齢者のみの世帯では、認知症リスクが高く、幸せでないと思っている人の割合が他の地域より高いため、高齢期を豊かに生きるための学習の推進が必要である。
- (2) 初心者向けのスマホ講座への受講希望やスマホコンシェルジュへの相談件数が多いことから、しばらくは初心者向けのデジタルデバйд対策を中心に推進していく必要がある。
- (3) 生涯学習に関するアンケート結果では、地域における心配なこととして、高齢者の孤立が高い地域であることから、交流機会の場の提供が求められている。
- (4) 生涯学習に関するアンケート結果では、学びの成果の活用に関して、「今は活かしていないが、今後活かしたいと思っている」割合が高いことから、地域人材を発掘するとともに活動につなぐためのコーディネート機能の強化が求められている。
- (5) 生涯学習に関するアンケート結果では、参加してみたい活動として、スポーツ・文化活動の次に、子供のための活動や子育て・育児支援活動が挙げられている。

3. 重点目標

- (1) 高齢者の関心が高い健康づくり・認知症予防に関する運動や学習の推進を図る。あわせて、多様な学習ニーズへの対応と充実した学習機会を提供していく。
- (2) 初心者向けのスマホ講座をメインに実施するほか、スマホコンシェルジュの活用などにより、情報取得方法を学ぶ機会を積極的に提供し、デジタルデバйд対策を図る。
- (3) 公民館事業や団体活動への参加を促し、地域住民の交流機会を創出する。
- (4) 地域住民の持っているスキルを発掘するとともに、公民館事業での活動機会などをコーディネートする。

- (5) 創意工夫し魅力ある事業を展開するとともに、公民館が身近で使いやすい施設であることを実感していただけるよう、利用者に対し全職員が丁寧な対応に努め、新しい利用者層の開拓を図る。
- (6) 外国人住民が増加傾向にあることから、多文化共生のための学習を推進していく。あわせて多様な人々の生活習慣等の違いを知り、正しく理解するための事業を実施していく。
- (7) 自分たちの公民館という地域の人々の思いが強いことから、町会・自治会をはじめ地区社会福祉協議会等、地域の諸団体の活動を支援し、地域社会の発展に寄与するとともに、協働で事業を行うことにより地域力の向上を図る。
- (8) 子供のための活動や子育て・育児支援活動に参加したい方が多いことから、様々な事業を通して、学校教育と社会教育の連携をより一層深めるとともに、児童ホームとの連携などにより、次代を担う子供たちの体験を通じた成長や発達を支援する。また、子育てに関する学習、情報交換、交流の機会を提供し、子育て支援、家庭教育事業の充実を図る。
- (9) 地域の拠点として、他部局関係各課との連携・協働を推進し、多様な行政サービスを提供する。あわせて、防災拠点としての役割を強化する。
- (10) 基幹公民館として、ブロック内の連携を密にして広域的な事業を実施し、各館の施設・設備の適切な維持管理に努める。

【様式4】

令和6年度夏見公民館事業計画

1. 地域の状況

夏見は太古から水辺と緑地が豊かな住環境を生み、時代の変化を受け入れ新陳代謝を繰り返しながら発展してきた経緯があり、令和6年4月1日現在、人口27,627人（前年比81人減）、世帯数12,579世帯（前年比96世帯増）と引き続き企業宿舍の減失、農地の宅地化による戸建て住宅開発の影響が見て取れる。

また、管区内には130年超の歴史を有す八栄小学校、団地開発と共に歩んできた夏見台小学校、伝統ある船橋中学校、さらに幼稚園、保育園が複数あるなど、子育て世代が求める住環境が充実し、3区分別人口の最新公表値（令和6年4月1日現在）では「15歳未満13.5%（市11.9%）」、「15～64歳64.2%（市64.2%）」、「65歳以上22.4%（市24.0%）」と「未来を担う子どもたち」と、その親「子育て世代」が多く住まう傾向が現在も続いている。

なお、当館が一角に立地する西夏見日枝神社など神社仏閣、戦国時代の城郭跡や縄文遺跡など歴史遺構も数多い。一方で高度経済成長の象徴である団地が立ち並び、近代日本の発展を支えた企業宿舍跡に宅地開発が進むが、今なお自然と新旧が調和する当地域は定住意識86%（R4都市マス）と非常に高い傾向にあり、地域への深い愛情や誇りを持つ人々が多い。

2. 地域の課題

- (1) 公民館区内の高齢化率が他地域よりは緩やかではあるものの年々高まってきている。
- (2) コロナ禍による活動休止中に高齢化が進み解散に至る利用団体は複数あり、将来に向けて公民館利用の本質を踏まえた改善への検討、取り組みが待ったなしの状況である。
- (3) 利用協を長年けん引してきた役員や参画してきた人々が高齢化し、次代に引き継ぐ人材を獲得できずにおり、利用協の存続が危ぶまれる状況にある。
- (4) 公民館利用者には生活困窮や家庭問題などを抱えて支援や配慮を要す人々も多いことから、地区社会福祉協議会をはじめ、関係団体、機関との連携を継続して行う。
- (5) 館区は土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、浸水想定指定区域が広がり、各自治会等の取り組みも盛んだが、未だ連携、協働に至らず、解決を求める声が多く寄せられている。

3. 重点目標

- (1) 最も身近な公共施設として求められる姿を意識し、常に地域住民に寄り添う運営に努める。
- (2) 地域と行政、人々が出会い結ぶハブとなる機会創出と、参加しやすい環境を作りこむに努める。
- (3) 地域の資産、才能の活用と協働を念頭に置き、事業設計にあたり様々な手段を取り入れる。
- (4) 障がいと共に生きる人々との協働の幅を更に広げ、共生社会に向けた姿勢を積極的に示す。
- (5) 時流が求める分野を分かり易く提案し、学び直しに繋がる入り口となる機会を提供する。
- (6) 未だ求めが多い極初心者向けデジタルデバインド事業と手厚い市民対応を継続する。
- (7) 人生100年時代を生き抜く力を養うための機会を提供する。

【様式4】

令和6年度高根公民館事業計画

1. 地域の状況

高根公民館の管区は高根町・金杉町・金杉・金杉台・緑台からなり、面積は約4.3㎢で、令和6年4月1日現在の船橋市年齢別人口統計によれば、人口15,410人、世帯数7,791世帯である。

地域は船橋市のほぼ中央に位置し、市街化区域と市街化調整区域が混在しており、豊かな自然が現在も残されている。

この地域には縄文時代の上高根貝塚、弥生時代後期の立場遺跡、室町時代後期の高根城跡などがあり、古く歴史のある地域である。昭和12年の2町3村(船橋町・葛飾町・八栄村・法典村・塚田村)の合併により市制が施行される以前は旧八栄村の一部であった。

昭和46年8月に金杉台団地、同年10月に船橋グリーンハイツの入居が開始され、一時期は地域の人口が急激に増えたが、現在は地域住民の高齢化率が35.7%と市全体の24%と比べて高く、少子高齢化が進んでいる。

2. 地域課題

- (1) 地域の青少年に公民館をより多く利用してもらうために、今まで以上に青少年の事業の充実を図っていく必要がある。
- (2) 社会教育関係団体の会員の高齢化や減少による解散が増えていることから、団体の活性化や支援を図る必要がある。
- (3) 地域住民が新たに始めたい学習として、健康・スポーツ・趣味・教養などがあがっている。このような多様なニーズに対応した学習の機会を提供していく必要がある。(生涯学習に関するアンケート p58)
- (4) 今後も高齢化は進んでいくだろうと思われる。孤立しがちな高齢者に生きがい、仲間づくり、健康増進の場を提供していく必要がある。(生涯学習に関するアンケート p91) また認知症リスク高齢者の割合が増加していることから事業を通じてその予防に努める。

3. 重点目標

- (1) 地域コミュニティの拠点として、誰もが気軽に集うことができる親しみやすい公民館を目指す。
- (2) 学校・青少年育成団体・地区社会福祉協議会・児童ホームなど各種地域団体と連携し、青少年の健全育成を目指す。また、ハッピーサタデーや講座内で取り扱うなど、共生社会に向けた事業も実施していく。
- (3) 社会教育関係団体の活動を支援し、サークルの活性化・維持発展に努める。
- (4) 高齢者の生きがい、仲間づくり、健康づくりを推進する。地域の特性・住民のニーズを把握

し、現代的課題や地域課題に対応した事業を展開し、学習の機会と交流の場を提供する。また、様々なライフステージに応じた事業を展開し、日常生活の充実や向上を図る。

(5) 地区自治会連合会等との事業の連携・協力において、地域住民の結びつきをより一層強くし、地域社会の発展と地域力の向上に努める。

(6) 館報「たかね」の発行やホームページを活用し、公民館の活動や運営に理解を得るとともに、情報を提供する。

(7) 利用者の安心安全を確保するために、施設・設備・備品等の保守管理・運営に努め、利用環境を補助する。また、非常時に迅速に避難所運営ができるよう日頃から備えておく。

【様式4】

令和6年度 新高根公民館事業計画

1. 地域の状況

新高根公民館の対象地域は、市の中部地区に位置する新高根1～6丁目、芝山1～7丁目、高根台7丁目である。面積は、約2.5km²、対象人口は令和6年4月1日現在、27,567人、世帯数13,637世帯で、閑静な住宅地域である。

人口の構成としては、令和5年4月1日現在、65歳以上の高齢化率が市全体の24%に比べ31.3%と大きく上回っている。現在も少子高齢化が進んでおり、今後ますます進むことが推測される地域である。

こうした状況を踏まえ公民館の対象地域では、自治会町会、地区社会福祉協議会が中心となり、課題解決につながる活動や地域住民同士の仲間づくりや健康づくり、生きがいくりにつながる活動などが活発に行われている地域である。

2. 地域の課題

- (1) 公民館区内に土砂災害危険個所があり、地域の災害に対する懸念が強い地域であるため、地域の防災意識の高揚を図り、防災体制の確立が必要である。
- (2) 未就園児等の保護者が交流できるよう児童ホームと連携し、安心して子育てができるための情報発信と保護者同士が交流できる場の提供が求められている。
- (3) 地区高齢者の運動機能低下者の割合は低い一方で、高齢者の独居世帯などといった孤立に対する懸念は市内でも高い状況となっている。
- (4) 地域において「人と人とのつながりが薄い。」と感じている方の割合が高く、地域住民の交流の機会が求められている。

3. 重点目標

- (1) 地域の町会・自治会、地区自連やNPO団体等の協力のもと、地域住民と一緒に防災計画を考えて意識の高まりを図るため、より多くの世代が参加しやすい内容の防災事業を実施していく。
- (2) 社会福祉協議会や子育てサークルと連携しながら、若い世代の要望意見を取り入れた子育て事業の充実を図る。
- (3) 高齢者が継続的に健康づくりに取り組める事業だけでなく、講座内での交流を目的とした事業やサークル化を促進する取り組みも行い、明るい地域づくりに貢献していく。
- (4) 公民館報やホームページ等を活用し、公民館の講座・イベント等やサークル活動、地域活動などの発信を行い、公民館の充実を図ると共に若い世代や普段、公民館を利用されなかったことのない人達も公民館を利用してもらえるような取り組みをする。